2017年12月1日発行(毎月1回1日発行)

DOYU さいたま

同友会三つの目的／良い会社　良い経営者　良い経営環境をめざす

各地区会の幹事メンバーと広報委員が連携し、市町村の首長を取材訪問する特集の第2回は吉川市長のインタビューです。魅力ある街づくり、中小企業への期待などについてお聞きしました。地域での活発な活動は、地域づくりや、中小企業振興基本条例にもつながります。今回は東彩地区会の幹事メンバーが取材を行いました。 (P2 ～ 3)

(写真左より若林清治広報委員、髙橋正哲副代表理事、永井義昭幹事、中原恵人吉川市長、原 博之東彩地区会長、藤元天美広報委員、伊藤 健幹事)

2017-12 December
VOL.479 毎月1日発行

特集

特集：首長訪問 第2回

～中原恵人 吉川市長に聞く～

「価値ある未来を、共に」を合言葉に奮闘中！

http://www.saitama.doyu.jp

社長の学校®

特集:首長訪問 第2回 ～中原 恵人 吉川市長に聞く～
「価値ある未来を、共に」を合言葉に奮闘中!

「同友会で活躍されている経営者の皆さんには、地域と地域企業、そして行政をつなぐ役割を担ってほしい」
中原吉川市長の力強い言葉がとても印象に残った、東彩地区会員による吉川市長訪問。「何位」「何%」という数字を追い求めるだけではなく「安心」「幸せ」「郷土愛」などの「幸福を実感出来る街づくり」、「価値ある未来づくり」を目指して、日々市政にまい進される中原恵人市長を訪問し、お話をお聞きしました。

【聞き手】
髙橋正哲副代表理事、原 博之東彩地区会長、藤元天美広報委員、若林清治広報委員、永井義昭幹事、伊藤 健幹事

中原 恵人（ナカハラ シゲト） 吉川市長

●吉川市の概要・魅力についてお聞かせください。

中原市長　吉川市は埼玉県南東部に位置し、平成8年に「吉川市」となり昨年20周年を迎えました。人口は72,000人で東京のベッドタウンとして、人口増が続いています。2012年にJR武蔵野線「吉川美南駅」が開業し、この地域の開発が進んでいますので、今後10年で約5,000人の住民増を予想しています。ベッドタウンとして人口が増えた経緯から、これまで特に観光に力を入れてこなかったこともあり、吉川市の魅力PRはこれからの課題です。その分、これからの可能性がある街だとも感じています。

幸い、吉川市は自治会数が95と、全ての自治会長さんとコミュニケーションをとりながらやっていける規模ですので、私が直に膝をつき合わせてお話しをさせていただいています。後ほどお話しする「産業振興」にも力を入れていますし、また、教育では、タブレット教材の導入、放課後教育事業などを一部の学校から実施し、吉川市全体に広がるように進めていますし、それを市街化調整区域にある生徒数が減少している学校の課題解決にもリンクさせています。

市政運営から人口減少問題を考えたとき、各市町村から不安の声が聞かれますが、不安に振り回されるのではなく、「吉川市での幸せのあり方」を追求していくことこそが、未来の吉川市の魅力につながっていくと考えています。

●中小企業振興条例に対するお考えと、今後の取り組みについて、お聞かせください。

中原市長　「吉川市の発展のために、中小企業と行政に何ができるか」という点にフォーカスした条例にしたいと考えています。そのために、企業訪問や農業関係者との意見交換などを積極的に行っています。

「中小企業への単なる補助制度」ではなく、「行政とどのように連携すれば、企業も上向きになり、吉川市民が幸せになれるのか」、その点を経営者の皆さんに考えていただきたいとお伝えしています。もちろん私自身も、「行政と地域企業の真の連携とは何か?」を模索しながら、訪問や意見交換を行っています。

条例の策定に向けて、様々な職種からなる推進チームを作り、幅広の意見をいただいています。それを踏まえながら、各経済団体のトップの人たちによる検討委員会で条文の案を作成し、さらに商工対策審議会で検討していただくという、三段構えで条例策定を進めています。埼玉同友会の太田さん(㈱ホウユウ 太田久年氏)には検討委員会の座長としてご尽力いただいています。

企業経営者や農業関係者をはじめとする、様々な分野の「吉川市の産業人」と共に議論を進め、「中小企業振興」という枠を越えて、農業、商業、工業を含めた「産業全体の振興を図る」条例にしようと思っています。当然、策定後の政策実現までも視野に入れ、しっかりとした条例にしてゆきます。

●先ほど教育についても少しお話をされていましたが、吉川市には吉川市教育大綱がありますね。

中原市長　この教育大綱こそが、吉川市の産業振興の条例に密接に結びついてくると思っています。

『家族を　郷土を　愛し　志を立て　凛として生きてゆく』という短い一文ですが、子供たちが自分の為だけではなく、誰かの為、社会の為に自分の能力を発揮し、社会に羽ばたいて欲しいという思いが込められています。

そのためにも家族や仲間への愛、生まれ育つ街への愛は重要です。そうした愛や志を子供たちに伝えるという部分において、企業の皆さんにも、ぜひ子供たちへの教育に力を貸していただきたいと思っています。これは私自身に対しても同じで、私が正しく生きることで、子供たちの中には政治家を志す人が出てくると考えています。この教育大綱が浸透するかは、先生だけの力によるものではなく、地域のすべての大人の背中にかかっていると思います。

たとえば、皆さんの企業を子供たちが回り、お仕事を学びながらスタンプラリーをするとか、高校生や大学生に向けた起業セミナーの講師を皆さんのような現場の経営者にやってもらうというようなことも条例策定後に展開できればと思っています。

ものづくりの大切さ、地元で働く良さを、どのようにしたら子供たちに伝えていけるかを模索しながら、市民が皆で、子供たちを育てていく、そうした街づくりを可能とする産業振興の条例にしたいと強く思っています。

●自然災害の増加に対する吉川市の取り組みについて、教えてください

中原市長　「理念を明文化することの重要性」を同友会で教えていただきましたが、災害対策にもそれはあてはまります。「すべて防ぎきることが出来ないのが自然災害」だと、謙虚に受け止め、「防災」ではなく「減災」という言葉を使用するようにし、今年を「減災元年」と位置付けました。そうした理念の下に、まずは危機管理課を新設し、自衛隊や県の防災担当、市の消防組合との連携を強化しました。そして何よりも重要視しているのが、「自分の命は自分で守る」という「自助」の意識の向上であり、自治会や各学校において「減災教育」を展開する中で、市民の皆さんに「自助」の重要性をお伝えしています。

●吉川市街づくりの未来図についてお聞かせください。また、吉川道路ビジョンは兼ねてよりの課題となっているかと思いますが、そこも併せてお話をしていただけますか?

中原市長　幹線道路と幹線道路がしっかりと接続していないという点が、吉川市の道路の課題です。道路整備は、吉川市の担当部分と、埼玉県の担当部分があるのですが、その連携が重要です。道路整備は産業発展にとって欠かせないものです。三輪野江地区にある「常磐自動車道・三郷スマートインター」の周辺を含め、「市民が使いやすい道路」そして、「産業が発展する道路」をつくるために、中長期の計画をしっかりと立てて事業を進めてゆきます。

まちづくりについてですが、じつは吉川市には、市民の心のよりどころ、吉川市のシンボルとなるような大きな公園がないのです。これは、市として非常に寂しく残念なことだと常々考えており、市民の幸福感を満たすような、また、市民が集えるような総合運動公園をつくりたいと思っています。それ以外の様々な分野においても、吉川市の先人や歴史に敬意と感謝を持ち、多くの市民との共動でまちづくりを進めてゆきたいと考えています。

●最後に、吉川市長として、中小企業に期待することや、同友会へのメッセージをお願いできればと思います。

中原市長　同友会は、勉強家で熱心な方が多いと感じています。中小企業家同友会の経営者の皆さんには、ご自身が属する地域の中でテーマを見つけて、地域の産業振興につながる活動をぜひ積極的に行ってもらいたいと思っています。地域と企業と行政をつなぐ、そんな役割を担っていただければ地域、そして地域の産業も、もっと元気になり、吉川市民の幸福実感が向上してゆくものと思います。

《取材を終えて》

「価値ある未来を、共に!」というテーマを掲げ、明確なビジョンと使命、信念を抱き、街づくりを進めている中原市長の一言一言に圧倒されるような、そして、私たち企業家の背中を優しく力強く押していただいたような、そんな首長訪問となりました。「地域貢献とは何か?」なかなか言葉にすることは難しいですが、5年後10年後の未来に、私たちがどう繋げていくのか、同友会運動の実践と行政との連携の中で、気づきがあるのだろうと思います。

吉川市の今後の発展を期待するとともに、私たち自身も同友会運動を通して成長していけるよう、励んでいきたいと思いました。

（東彩地区会 広報委員 藤元天美 記）

第5回 経営労働問題全国交流会in 京都

～社員と共に魅力ある未来を創造し持続可能な企業へ～

8月31日～9月1日 京都ホテルオークラにて「社員と共に魅力ある未来を創造し持続可能な企業へ」のスローガンのもと、38同友会・中同協から267人が集い「人を生かす経営」について経営体験の交流や白熱した討議が行われました。

今回の経営労働問題全国交流会は初日全体会で中同協 中山幹事長が問題提起を行いました。「経営指針の成文化運動は各地同友会で進んでいるが、実践運動はまだ弱い」との発言があり、いくつかの理由を挙げました。問題提起を受けて、4つの分散会(労使見解、経営指針成文化、企業変革支援プログラム、労働環境整備)が開催され、第3分散会の《企業変革支援プログラムを活用した経営改善の取り組みと普及運動》に参加しました。

中山 英敬中同協幹事長

▲第3分散会報告者
松田 哲也氏(香川)

香川同友会 松田哲也 経営労働委員長から香川同友会の昨年12月企業変革支援プログラム登録の取り組みについて報告がありました。松田氏は当初独力で経営指針成文化に取り組んだものの、社内での浸透に苦戦をした経験から、社員主導の指針成文化に切り替えます。社内でのコミュニケーションをはかったのち、企業変革支援プログラムSTEP1を社内全員で毎年実施。各項目点数を上げるためにアクションプランを立て、結果として税理顧問先を増やす事に成功しました。この経験をもとに香川同友会では登録普及活動を実施し、2015年登録数59名から2016年178名の日本一の登録数となりました。

グループ討論では、『人を生かす経営の実践の物差しはなぜ必要ですか?』『わが同友会にどのように広めますか』をテーマに議論を行いました。企業変革支援プログラムを活用して「社長としての主観的評価」「社員が行う会社の客観的評価」この二つを行い、課題を抽出していく事が重要で、社員からの評価を謙虚に受け止める経営姿勢の確立も重要だと議論が盛り上がりました。

山田製作所社長 山田茂座長のまとめでは、「企業変革支援プログラムは労使見解をもとに作成した事業性評価である。経営者は売上・利益・社員数など数字で見えるものだけでなく、経営理念浸透度・社員の自主性・社風など"目に見えないが経営の根っこの部分"を見つめながら、全社的な取り組みで課題解決をして、それを他の会員にひろく進めて行く運動体として発信して行きましょう」と述べられました。私自身も今年、社内で企業変革支援プログラムSTEP1を行い、社内での見えない部分での浸透度の低さを実感。言葉やビジュアルで伝える重要性を認識しました。

懇親会では京都市長が挨拶で「京都は1000年企業が2社、100年企業が1600社あります。今日参加の皆様にはお客様・地域・社員さんの"三方良し"だけでなく、未来良しも加えた"四方良し"を目指して下さい」との言葉をいただきました。

二日目全体会のまとめで、宮城同友会 玄地副委員長が経営指針の実践を「指針で掲げた企業像に近づくための成果を行う具体的な行動」として「月次決算」「企業変革支援プログラムSTEP1と2の日常的活用」「経営指針書の毎年の見直しと経営指針発表会を行う外部発信」3つを行おうと呼びかけがあり、交流会は終了しました。同友会の全国大会は実際に参加をしないと得られないものがはるかに大きく、今後の各会員の全国大会への参加を強く望みます。

吉田雄亮(経営労働委員長／戸田・蕨地区会)

経営労働問題全国交流会に参加して

全体会の冒頭、中同協幹事長 中山英敬氏より「人を生かす経営」の推進をするにあたり、「企業変革プログラム[step1]と[step2]を実践しe-doyuを活用しましょう」との話がありました。第3分散会では香川同友会 松田哲也氏の『企業変革支援プログラムを活用した経営改善の取り組みと普及運動』の実践報告が行われ、「企業変革支援プログラムを社員と共に取り組むことにより実績が向上した」「トップダウン型の経営指針書であったが、社員参加による見直しをはかり社員主導型に切り替えたら社内が変わった」「数字(売上・利益)の積み上げではなく、セルフアセスメント(自己診断)することにより見えない部分=根っこを張っていこう」と語られました。

グループ討論では「企業変革支援プログラムを6年間続けた。はじめはチンプンカンプンだったが、続けることによりみんな輝いてきた。業績が向上した」「同友会活動と同友会運動は違う。どんなに活動しても運動しないと意味がない。運動とは《学ぶこと・変えること・それを広めること》」などの充実した意見が交わされました。

今回、全国交流会に参加して、多くの学びと多くの仲間との交流がありました。先輩諸氏より惰弱な自分に対してズバズバ指摘をいただき感謝です。　金子房雄（埼葛地区会）

2017年度 第1回 中同協広報委員会
～その手があったか、広報活動～

去る9月20日、大阪にて中同協広報委員会が開催されました。中同協は50周年5万名を目指しています。広報委員会として、会外にむけて発信する情報により会の信頼を得ること。それには会内でデータ収集し、それを分析し情報にしてゆく活動が重要だと、加藤昌之委員長からの課題提起がありました。当日の活動報告からヒントを学びます。

熊本同友会の広報活動～熊本地震後の変化～
報告者：熊本同友会広報委員長 岩井雅彦氏

「他者の力を活用」

機関誌の配布先には行政、金融機関、学校などがあり、外部に対する広報の場を広げています。それにとどまらず「各界からの提言」を寄稿してもらい、一方通行ではない関係づくりをしています。内部に対しては、委員会・支部等の報告とともに、川柳などの趣味的なコーナーや「どうゆう辞書」という解説コーナーなど、会員参加型の工夫をしています。

福岡同友会の情報化と会外広告活動の歩み
報告者：福岡同友会広報情報化本部長 貞池龍彦氏

「計画的な、マスコミとの関係づくり」

委員会ではビジョンを作成し、めざす姿を確立するために5か年計画の実践に努力しています。会外に向けては、長年にわたりマスコミ関係者との懇談会を開催しています。景況調査に力を入れ、マスコミや行政に提供することで、日常的な関係づくりや提言などをしています。現場（中小企業）の情報を会の強みにしています。また、広報委員会だけの取組みとせずに、正副代表理事会内に報道部を設置して対応しているのも特徴です。

まとめ

同友会と広報の役割～まさかの時の同友会～

両同友会とも、直近に自然災害を被り復旧途上にあります。「まさか」のときに経済団体としての役割を担い、存在意義を体現しているといえます。一時的な取扱いの報道機関と異なり、地域に密着した情報収集を継続的に取り組み、現在も発信し続けています。会員自らも、将来に向けた判断や行動のための参考になっているはずです。

また、全国の情報が交換できるので、災害時にはe-doyuが有効であったことも共通しています。

グループ討論～柔軟に考え行動する～

「紙かWEBか」ではなく、いまあるものを活用しそれぞれの手段をどのように組み合わせるか、アイデアを検討しあいました。会外広報、ことに行政・金融機関などには紙媒体は必須という意見があり、カラー化を推進するために発行数を抑えたり、新聞形式への変更により経費を減らす努力を行っています。スマートフォンが一般化していることから、機関誌にQRコードなどアプリを導入し、また、中小企業家新聞は行政に喜ばれているというところもあり、費用を抑える点でも有効です。広報委員には「知恵」と「行動力」が求められているとの気づきを得た委員会でした。

（さくら地区会 広報委員 池田恵津子 記）

【中同協広報委員会に出席して】

「日本経済のあるべき姿を伝えるための機関誌の意義は大きく、ここが各同友会の機関誌に求められていること。故赤石義博氏（元中同協会長）は、『理念と実践の普及と進化の役割は連帯をつくりあげること、そして同友会の広報活動とは、会内、会外との関係を作り上げること』と語っておられた」と加藤中同協広報委員長がお話をされました。

その後、「仲間をどうやって増やすか、組織をどうやって強くするかを踏まえた広報活動が大事である」、「実践の進化・深化とは、会員事例をできるだけ多く聴き報告する。これが同友会の基本であるならば、仲間から経験を学び、仲間と共に会社を良くしていくことが組織強化に繋がるものである」「同友会の広報とは『広報情報化』を目指すべきである」と続きました。埼玉同友会の広報活動は"同友会のため"ではない、広報情報化活動を通して会の組織強化、増強運動の一端を担う活動を推進していくものであり、その活動を通して、自身や自社の経営に生かしていくものであると改めて実感しました。そのために、埼玉同友会広報委員会はこれからどう進むべきか、活動理念を明確にし、みんなと一緒に模索し活動をしていける委員会にしたいと思います。

（東彩地区会 広報委員 藤元天美 記）

2017新入社員リフレッシュ研修会
～新入社員輝いてますか？

9月5日～6日の二日間にわたって、2017年4月に入社した新入社員を対象とした《新入社員リフレッシュ研修会》が開かれました。入社して半年、研修を通して悩みや気づきを共有し新たな一歩を踏み出す新入社員の姿がありました。参加したスタッフからのメッセージを以下にご紹介します。

社員教育委員長 小山展弘（浦和地区会）

今回の研修は、一泊二日だったので、同期の受講生たちも次第に打ち解け、課題を出し合い、意見交換し、最後には笑顔で終了することができて非常に良い研修になったと思います。スタッフの方々も、若手社員に接することで多くの刺激を受け、気づきを得ることができました。

また、社員の悩みなど自社だと、なかなか聞けないことも、他社の社員と話をすることで、置き換えて考えられることも、社員研修の良いところだと思います。次回の研修も社員、社長ともに、学び多き企画を検討していきたいと思います。

■合同入社式から半年経ち、「久しぶり」「元気?」など、参加者同士が声を掛け合い、和やかな雰囲気で始まりました。グループ討論では、積極的に自分の考えや意見を述べる参加者に、社会人になって半年間の成長を実感しました。また、グループ発表はイラスト入りや物語風など個性があり、楽しさと熱意が伝わるものでした。スタッフとして参加して「気づき」が多い2日間でした。

（大宮南地区会 岩見真理子）

■新入社員研修以来、受講生たちに会うのは久しぶりでしたが、どの参加者も“社会人の顔”になっていたことに驚きました。久しぶりに顔を合わせ互いの近況を報告しあい、またスタッフにも声をかけてくれたりと、打ち解けた雰囲気の中での研修でした。研修の最後には、互いに連絡先を交換したり、写真を撮ったりと別れを惜しむ姿がありました。

（大宮中央地区会 高橋浩一）

■新入社員は「何が分からないかが分からない」ので、何を質問したら良いのかが分かりません。

また、質問しようとしても、「どのようなタイミングで」「どのように質問したら良いか」が分からないのです。“分からない”を“分かる”に進化させていくには個人の努力とともに、迎え入れる企業側の“分かってもらう”努力が必要だと思います。

（むさし野地区会 石井利典）

■今年の新入社員リフレッシュ研修会は、受講生が積極的に発言をし、グループ討論もかなり盛り上がりました。社内の人間関係に悩んでいる方もいましたが、この研修で学んだことを生かして、今後も頑張ってもらいたいと思います。今回も、私自身が受講生から色々な事を学ばせてもらい、力をいただきました。

（東部地区会 小島秀孔）

【研修会に参加して～新入社員アンケートより】

◎二日間、自分と同じような悩みや不安を抱えた同期の方々と様々な討論をしました。共有することで安心感が生まれると同時に、負けていられないという競争心も芽生えました。参加したからこその収穫だと思います。

◎今回の研修で、同期の大切さ、怒られることも成長のために必要である事、しかし弱みだけではなく自分をほめて認めてあげることで自信をつけることも必要であることがわかりました。

◎研修会でグループリーダーになったことで、もっと積極的に人と話していこうという気持ちになりました。テーマの進行役として同期たちに質問するうちに自分と似た悩みがあることがわかりました。

◎悩みを共有することで、自分の中では思いつきもしなかった意見や考えを聞くことができた。グループ全員で一つの答えを導き出したり、様々なゲームを通してコミュニケーションを学ぶことができました。

◎働くこととは何か、生きることはどういうことか等、人間の基本的な部分を一から学び直すことができました。また、ビジネスマナー研修では、自分では常識だと思っていたことが世間の一般常識とずれていることに気づくことができ、得るものが多くありました。二日間を通して、集団の中で自分の立ち位置がどういうものかに気づき行動することができたのは今後の私の糧になると思います。

◎今回の研修で、悩みには解決策があるということを学びました。今までは悩んでいても変えられないと思っていましたが、解決策をみんなで考えることで、「そんな考えもあるんだ」と知ることができました。最初から諦めるのではなく、自ら道を切り拓いていくことが大切だと学びました。

◎研修前は自分の仕事のやり方にあまり自信が持てませんでしたが、講師の方のお話で、小さな成功体験の積み重ねが自信につながっていくのかなと思いました。

地域と生きる 第4回

〈地域に根ざした取り組み事例を広報委員会が取材しました〉

白岡市地域包括支援センター
ウエルシアハウス(中部地区会)
センター長 福田 英二氏

Data

■埼玉県白岡市白岡1143-1
■TEL:0480-90-3022　■FAX:0480-90-3023
■事業内容:医療介護福祉の総合相談所

来たる高齢化社会に向けての地域づくり

今年の夏のはじめ、「これはなに?」と思わせる、小粋で山小屋のような建物がウエルシア薬局白岡店の駐車場の一角に出現しました。この建物は白岡市地域包括支援センターウエルシアハウス。自治体の委託により民間企業が運営を請け負う全国初の施設です。

高齢者に限らず地域全体の支援へ

"地域包括支援センター"と聞くと、行政や医療機関の施設で気軽に入りにくいイメージがあるかもしれません。しかし、この建物の四面は大きな透明ガラスが巡らされ、木材が巧みに組み込まれたとても明るく、居心地の良い快適なスペースとなっています。

また、支援センターとは高齢者を介護するための施設と思われがちですが、高齢者を支えていくために、地域に暮らす人たちの生活をさまざまな面からサポートする機関です。すなわち「支援の対象は地域全体」ということになります。高齢者対策だけでは地域は活性化しません。しかし、全国7000カ所近くある支援センターの多くは高齢者対策偏重で、地域の活性化を支援している施設はほとんどないのが実情です。

自治体と民間企業の提携

センター長を務める福田英二氏は看護学校を卒業後、病院の精神科で医療看護に従事していましたが、その後、脱サラして開拓農業に取り組んでいたとのことです。ずっと農業を続けたいという思いはあったものの、農業を指導してくれた農家の方々が介護施設に入所したり、脳梗塞で倒れたりして農業を離れる様子を目の当たりにしたことで、ケアマネージャーの資格を取得し医療の世界に戻る決断をします。50歳のときに東京都江戸川区の介護老人保健施設の責任者に抜擢されて介護に関わった経験から、定年を期に江戸川区で『暮らしの保健室・かなで』を設立。積極的に地域の交流を推進する活動の中で実績が評価され、ウエルシア薬局の顧問に就任しました。

ウエルシア薬局白岡店は以前から、白岡祭・わんぱく笑(商)店街などのイベントや医療連携で地域と協力関係にありましたが、昨年12月に支援センター業務委託の公募に応募。今年1月に正式受託が決まり、急ピッチでウエルシアハウスの建設を進め、6月にグランドオープンとなりました。

福田氏は当初、企業名は入れることができないと思われていたようですが、市の方から「ウエルシアさんの名前を付けてください」と言われたそうです。市が企業に協力を求め企業がそれを応援するという、自治体と民間企業のタイアップで地域を活性化していくモデルケースになるかもしれません。

福田氏が掲げるウエルシアハウスの目的は、次の3点です。①地域における住民交流の推進。②自主的な地域活動の支援。③様々なボランティアを支援。

開設間もないながらも、すでに認知症を支援する《オレンジカフェ》の定期開催、ケアマネージャーとの交流会や、近所で活動する音楽バンドを招いて皆で歌うなど多くの催しを開催しています。レンタルではなく専用スペースであるため、開始時刻や終了時刻の制約がないのもメリットになっています。

同友会のネットワークで

運営自体は大手企業へ委託していますが、福田氏は「中小企業が地域にあるからこそ地域経済が成り立つ。そこで働く人と支える家族の生活があるから経済が生まれ、物が循環することで生活できる街となる。街があるから大手企業も存続できる。そのためには中小企業も地域も潤う民間の活力が必要」と語ります。それは地域の中小企業が地域に生活する人々が求めているものを提供していくことに繋がるのではないでしょうか。

中部地区会では、7月例会での福田氏の報告とグループ討論で得た刺激を持ち帰り、地域に対して自分達ができること・やりたいことを検討。2ヶ月後の9月例会で検討したプランを持ち寄り、プレゼンテーション大会で発表しました。続いて行われた討論会、懇親会でも論議は白熱し、実践へ向けて連携部隊の結成となりました。同友会のネットワークは未知数です。

(中部地区会 広報委員 矢沢敦臣 記)

リラックスで"テロメア"を伸ばす

大宮南地区会
㈱エンライト
代表取締役　髙橋　清
川口市安行領根岸 3290-3
TEL：048-282-4861
FAX：048-282-4861

◇時間の過ごし方

今年の7月で還暦を迎えました。年齢より若く見られますが、特別なことはしていません。ふだんは裸眼で髪も染めずにいられるので、何かが良い習慣だったのかもしれません。

▲グリーンセンターの芝生

経営品質の資料づくりなどでデスクワークが続くときは、合間を作って近くの川口市立グリーンセンターに行って、園内の芝生の上でウォーキングをしています。自転車もペットも球技も禁止なので安心して歩けます。

料理も好きで、よく作ります。興に乗ると休日には3食とも作るときもあります。和食が中心ですが、家にあるもので作りますので、和洋折衷になることも数知れません。

仕事柄、ビジネス書はたくさん読みますが、好きな本の順番がなかなか回ってきません。阿部公房全集30巻を老後の楽しみにと飾ってあります。

年に何回か妻と一緒に小旅行に出かけています。京都のお寺巡りが一段落したので、伊勢神宮や出雲大社に天孫降臨の高千穂と回り、合わせて熊本城や松江城、大阪城と城巡りに移りました。

▲昨年の4月5日、震災前の熊本城にて

◇趣味

▶愛用のギター

ギターを弾くことと将棋です。大学の頃は髪を長くしてバンドを組んだりしていましたが、今は一人で爪弾く程度です。相棒のマーティンD-28Pはもうすぐ30年、いい音で鳴ってくれます。将棋は4段を持っていますが、最近はコンピューターソフト相手に苦戦しています。ギターの艶出しをしたり、ツゲの駒を椿油で磨いたりしているときが私の一番の「ほっと一息」かもしれません。

40代後半から10数年、茶道のお稽古に毎週通っていました。男の先生でしたので、風炉の灰を押したり炭を洗って切り揃えたりと水屋仕事も体験しました。真冬の月明かりのない夜に行燈や手燭で行う夜咄の茶事が異空間の趣で忘れられない思い出です。お作法の一つひとつはもう忘れかけていますが、茶器を扱う両手条件や丸回し・角回しなど、所作を丁寧に行うことは日常の中でも活かせることだと心がけています。

◇スポーツ

30代から15年位テニスクラブのスクールに通っていました。妻とはそこで知り合いました。今でも月に1度くらいですが一緒にプレーしています。

▲9月30日バドミントン合宿

高校時代にはバドミントンをしていました。50歳の時に高校のホームカミングデーで仲間に再会し、それを機に年に4～5回集まって川口市の公民館のホールを借りてゲームに興じています。近くの銭湯で汗を流して居酒屋でビールがお楽しみです。年に1度は合宿も行っています。この秋には長野県上田市の丸子総合体育館をお借りして、鹿教湯温泉に泊り、上田城址を観光してきました。これでもう合宿も10回目です。

◇これから

先日、ノーベル賞学者のエリザエス・ブラックバーン女史の『テロメア・エフェクト』という著書を読んで、細胞から若返れることを知りました。染色体の先端部分であるテロメアは寿命を司り、加齢とともに短くなるとされていましたが、食事・睡眠・運動・ストレス対処法などの生活習慣次第でテロメアを保持したり伸ばすことさえできるというのです。テロメアは、私の発した指示を吸収し、リラックスしているか幸せかに反応し、それが脳の状態や気分、老化の速度に影響を及ぼすのだそうです。

これを機に、テロメアに良い住まい方や時間の過ごし方、そして人間関係づくりをして、皆様のお役に立てるように良い仕事を続けていきたいと思っています。これからもご厚誼のほどよろしくお願いいたします。

埼葛地区会30周年記念式典

10月29日『埼葛地区会創立30周年記念式典』が
総勢130名を超える登録があり大盛会に行われました。

第1部の記念式典では水野会長から過去の反省も含めて新たに検証された35周年ビジョンを全員の前で堂々と声高らかに発表されました。続いて、企業づくり・地域づくり・地区会づくりの活動の振り返りが各担当者より報告されました。

第2部の記念講演は『最良だから最強な組織づくりの定石～魅力ある風土と自ら考え動く人づくりに向かって～』と題して、望月広愛氏((株)MAT代表取締役社長)より経営者にふさわしいご講演を頂きました。『八つの箪笥、オセロの四隅を押さえる、共有より共感、人づくり』などのキーワードをもとに、社員のやりがいが高まる会社についてのお話があり、用意された50冊の書籍はあっと言う間に完売。参加者は名刺交換をしながら自地区会での再会を約束する姿がありました。

第3部の懇親会では埼葛地区会らしい和気あいあいとした雰囲気の中、経営の話題に花が咲き、明日からの活力を大いに養うに余りある盛り上がりでした。そして最後に、小宮初代会長の挨拶のあと、恒例の地区会ソング「友だちはいいもんだ」を皆で唄い、お開きとなりました。

私自身、報告者貢献部門等で表彰して頂きましたが、埼葛の先輩から"ご恩返し"と教わってきた事を実践したまでです。自分が会長の時には多くの方々に支えられ、お願い事をすることが多くありました。「恩知らずは恥知らず」その言葉を胸に、自分にできるご恩返しをしただけです。これまで支えてくれた地区会の仲間たち、そして私が留守の間に会社を守ってくれた社員やスタッフ、最後に少しだけ頑張ってきた自分が誇らしく思える、そんな感動をまた頂きました。すべての皆様、本当にありがとうございました。（埼葛地区会 奥津雅史 記）

▲恒例の地区会ソングを熱唱

各地区会で開催された例会をご紹介します。

【大宮中央地区会9月例会】

会社の発展に通じる同友会活動とは?
～地区会長が語る同友会活用法～

報告者:水野 浩美氏〈トライアルプランニング 代表、埼葛地区会 会長〉

9月12日大宮中央地区会9月例会を埼葛地区会 会長の水野さんを報告者としてお呼びして開催しました。地区会幹事をはじめたくさんの方に協力頂き、40名を超える参加者でした。

報告については、水野さんの3つの柱(自分の信念)をベースに同友会と自社の経営との関わりについての報告を頂き、報告者の時間が足りないくらいの思いを報告してくれました。

グループ討論では、県の正副代表理事を初め、委員会の委員長、他地区会の会長、会員、他県の会員の方々と一緒にグループ討論を行いました。

他県、他地区会の方々とのグループ討論はいつも同じメンバーの時とは違い、すごく学び、気づき多いグループ討論でした。グループ発表も各グループ素晴らしい発表でした。

懇親会でも話は尽きず第二グループ討論になり一部の会員さんは、他県の例会に参加する約束をするほどでした。

同友会の会員の方々は他県でも他地区でも自社を良くしようという思いが一緒なので、お互い話し始めると話は尽きないですね。今回は学びの多い良い例会だったと思います。

（高橋浩一 記）

【川口地区会9月例会】

「経営者人生」を決めた同友会との出会い ～「同友会三つの目的」を実践して～

報告書：山口勝治氏〈㈱タイホー 代表取締役会長〉

昭和59年の入会以来、30年以上の長きに渡って同友会活動に打ち込んできた山口さんの報告は、「同友会活動を経営に、そして人生に活かす」という壮大なテーマでした。にもかかわらず、山口さんの報告はユーモアに溢れ、すぐに引き込まれるような語り口でした。

昭和47年に起業した後、創立10年の川口地区会に入会した山口さん。それからの活動は川口地区会、そして埼玉同友会の歴史と言っても過言ではないでしょう。平成7年からは埼玉同友会の代表理事を務め、経営指針づくりに力を注ぎました。現在も定期的に行われている川口地区会名物『ランチ経営塾』で、私たち若い会員に「理念型経営の実践」をご教示いただくなど、精力的に活動されています。

山口さんが同友会で学んだ経営の本質は、「経営指針」を中核的価値観とする「理念型経営」を学ぶことにあり、そのためには「社会性・科学性・人間性」の観点が必要だと語ります。具体的な内容は一冊の本になるほどで（山口さんは平成4年に「『小さな大企業』のすすめ」という著書を出版しています）、とても紙面にまとめることはできませんが、その一端を感じとっていただければ幸いです。

さらに山口さんは、「経営で成功して50点、継承に成功して100点」と、事業承継の重要性を説き、事業承継においても「経営指針」が基軸になると語りました。最後に、「事業承継後は『経営指針』を『人生の経営指針』に活用する」と、幸せな人生を送るための話にまで及びました。　（高倉光俊 記）

【戸田・蕨地区会9月例会】

経営指針を作る苦労をしますか？ それとも経営指針なしで苦労しますか？ ～激白 経営労働委員長が語る経営指針が必要な訳～

報告者：吉田雄亮氏〈㈱吉田電工 代表取締役〉

経営労働委員長である㈱吉田電工 吉田雄亮氏が、自身の経験から自社で何が起き、どのように変わって行ったのか、これからどのように変えていきたいのかなどをふまえて、経営指針の必要性について報告しました。

「経営指針セミナー受講前は自分を正当化し、手法ばかりを追い求めていて経営姿勢の確立ができていなかった」と当時を振り返り、謙虚に学ぶ姿勢とぶれない経営理念、パートナーとしての社員との信頼関係づくり、経営指針の実践と良い経営環境づくりへの実践とその重要性を語りました。

また、「問題」を「課題」に変えることが必須で、課題は一人で取り組まず、社内で共有し社員とともに取り組むことと、社員にきちんと説明し受け入れてもらえるまで継続する事が大事なのだと続けます。

同友会活動は先人経営者が知恵を出し合い築き上げてきたものを追求し、学ぶことでその真理に近づこうとしていますが、誰もがまだ道半ばであり、活動を続けていくことが不可欠なのだと感じました。　（石井孝徳 記）

【浦和地区会9月例会】

社員参加型例会 信頼しあえる人間関係のつくり方 ～実践型ワークショップでコミュニケーションの「あり方」を学び合おう！～

報告者：西畑良俊氏〈office imacoco 代表、東部地区会〉

浦和地区会9月例会は、「社員参加型例会」として、「信頼しあえる人間関係のつくり方」をテーマに開催しました。総勢55名（そのうち半数は会員企業の社員さん）に参加いただき、熱気を帯びた例会となりました。

はじめに報告者の西畑さんから、新春恒例の箱根駅伝を例に、チームワークにおけるコミュニケーションの大切さを学び、続いて、「話し合う」のではなく「聴き合う」ことの重要性や、「話し合い」は相互に一方通行で言い合っているだけで相手に真意が伝わっていないことが多いことを学びました。

その後、いくつかのワークを行った後、「信頼しあえる人間関係をつくるため、明日から何をしますか？」をテーマにグループ討論を行いました。

グループ発表は各グループとも、社員さんにやっていただき、「社長から直接褒めて貰えると、とても嬉しい。もっと褒めてください」との本音もあり、社長さんたちがハッとさせられる場面もありました。「会社」や「立場」の枠を越えて学び合える場となりました。　（大森靖之 記）

新たな辞書の1ページ　新入会員紹介　(10/1～11/1)

林　洋一
㈲林ラインサービス
さくら地区会
食品輸送

松本　恵
関越運輸㈱
むさし野地区会
一般貨物自動車運送業

杉田真友
明成法務司法書士法人
むさし野地区会
司法書士業

佐久間英樹
㈲軍(たけし)工務店
川口地区会
一般住宅等の建築及びリフォーム

丸山靖雄
コスモプリンツ㈱
さくら地区会
印刷・ウェブ・サイン・ノベルティ・動画の制作・製造

荒川英浩
㈲鳥新
むさし野地区会
食肉販売業

【告知】

『DOYOUさいたま』1月号は1月中旬の発行となります。封入チラシをお申込みの会員は日程にご注意ください。

同友会日誌　10月1日～31日

2日(月)　さくら幹事会、東彩幹事会
3日(火)　川越幹事会、川口幹事会、大宮南幹事会、大宮東幹事会
4日(水)　むさし野幹事会、西部幹事会、中部幹事会、浦和幹事会、埼葛幹事会
5日(木)　戸田・蕨幹事会、東部幹事会
7日(土)　経営指針づくりセミナー【戦略編③】(合宿)～8日(日)
10日(火)　グループ長研修【全研実行委員会】
11日(水)　広報委員会
12日(木)　経営労働委員会、仕事づくり委員会、大宮南例会
13日(金)　正副代表理事会議(合宿)～14日(土)、大宮中央幹事会
16日(月)　東彩例会、ファムミーティング
17日(火)　川越例会、川口例会、加須・羽生地域例会
18日(水)　北部例会、浦和例会、東部例会、むさし野例会
19日(木)　戸田・蕨例会
20日(金)　西部例会、大宮中央・大宮東合同例会
23日(月)　ファム・埼玉県共催セミナー、青年部コンパクト例会、さくら例会、青年部幹事会
24日(火)　2018女全交リーダー会議、新入会員オリエンテーション
25日(水)　共同求人政策室、大宮ブロック会議
26日(木)　組織強化支援室会議【組織強化支援室】、第3回理事会
27日(金)　企業と特別支援学校による『実習受入促進交流会』【障害者雇用推進委員会】、中部例会
28日(土)　経営指針づくりセミナー【計画編】
29日(日)　埼葛地区創立30周年記念式典
30日(月)　2018女全交臨時実行委員会、全研実行委員会⑦
31日(火)　政策問題プロジェクト会議、社員教育委員会、学びを牽引する専門委員会推進月間／共同求人って何？オープン学習会【共同求人委員会】

会員information

《住所・TEL・FAX変更》

むさし野地区会　㈱エンドープラスチック 遠藤隆雄、雄大会員
〒354-0043 入間郡三芳町竹間沢440-1
TEL：049-293-3244
FAX：049-293-3245

《住所変更》

中部地区会　埼玉チェスコム㈱　沢木英昌会員
〒330-0845さいたま市大宮区仲町3-154
奥山ビル2F

《住所・TEL・役職変更》

浦和地区会　㈲市川新聞店　市川浩正会員
〒330-0062 さいたま市浦和区仲町2-2-7
TEL：090-3103-9790
代表取締役へ

《TEL変更》

川越地区会　㈱グレートフル 木屋野史明 会員
TEL：090-4175-1757

《FAX変更》

東部地区会　㈱テンワード　十文字達也会員
TEL：048-972-5588
FAX：048-971-6446

東部地区会　リフレッシュルーム・マザーハンド　山田クニ会員
FAX：048-878-9985

◆訃報　謹んでご冥福をお祈り申し上げます

さくら地区会　山﨑哲資会員のご尊父が逝去されました。

会員数

2017年11月10日現在

地区会名	会員数	地区会名	会員数	地区会名	会員数
川　口	38	西　部	47	さくら	82
戸田・蕨	52	むさし野	107	川　越	86
浦　和	86	東　部	129	東　彩	51
大宮東	43	中　部	54	(仮称)青　淵	1
大宮中央	39	埼　葛	68	(仮称)鶴坂東	2
大宮南	86	北　部	36	計	1007

※青淵、鶴坂東については
現在新地区会設立に向けて準備中のため仮称としています。

編集後記

新しい事業を始め、最近、人間関係で悩むことが増えてきた。つまるところ、経営は人間関係とお金の問題だと、何かの本で読んだことがある。自分が好きな人、気が合う人とだけ、お付き合いできるのであれば、それが一番楽である。自分の環境に照らしてみれば、昔の職場仲間、趣味の仲間とだけ付き合えればどんなに楽なことか。新しい世界に飛び出すことはとても勇気のいることだし、エネルギーが必要。半端じゃない。苦労、後悔することも多いが、一度港を離れた船は、荒波を超えるしかない。自分を信じて。スタッフ、家族が私の背中を見ている。まあ、色々考えずに美味しいお酒を呑んで、明日に備えるとするか！

（浦和地区会 広報委員 三友哲哉）

デイサービスに情熱を燃やす元熱血甲子園球児

竹内　朗

たけうち　あきら

㈱はっぴぃふれんず
代表取締役
〒367-0216
埼玉県本庄市児玉町金屋147-1
TEL:0495-71-8690
FAX:0495-71-8692
https://happy-friends.co.jp/

▲利用者さんといっしょに作った作品を前にニッコリ

【野球少年が甲子園に】

本庄市児玉町で《デイサービス縁(えん)》を経営する竹内氏は、大阪で生まれて埼玉で育った野球が大好きな少年でした。高校に進学するときに勉強か野球か迷ったのですが、高校野球は高校生の時にしかできないからと、野球の強い東京農業大学第二高校に進学します。先輩たちからの理不尽なしごきに耐え、3年生で念願の甲子園出場を果たし、3回戦まで進みました。清原和博、桑田真澄、大魔神 佐々木主浩と言う名選手たちと同期だそうです。その年の大会中に日航機が墜落し、搭乗していた部員のお父さんが亡くなるという体験もしました。

▲高齢者が幸せになれる「居場所」づくり

【大きな事故を経験して介護の道へ】

高校卒業後は大学に進学しましたが2年生の時にバイクで事故に遭い、生死をさまよう大怪我をします。そのため大学を中退して実家のある神川町で療養しながら5年過ごしました。この時の入院・療養生活で病院や施設の方たちにお世話になった経験が竹内氏を介護の世界に進ませる決意をさせました。

25歳のときに特別養護老人ホームに就職して15年間働きました。老人ホームでの仕事は業務が中心で、利用者との関わりがないことを常々感じたそうです。「自分は利用者ともっと関わるサービスを提供したい」と介護事業の経営を考えるようになります。地元のデイサービスに転職し、5年間勤めた後46歳で独立しました。平成26年に現在の法人を設立し、4月から今の施設《デイサービス縁》を設立。起業時は融資を受けることと物件を探すことに苦労したそうです。

【高齢者が幸せになれる「居場所」づくり】

以前の職場では利用者の笑顔がなく、利用者と職員との会話もなかったそうです。利用者の方に笑顔になってもらいたい。そのために今の《デイサービス縁》を開始しました。

「自宅でくつろげる雰囲気にしたいので民家を改装しました。年を取ることに悲観的にならずに高齢者に人生を楽しんで貰いたいです。こんなデイサービスがあるから年を取っても楽しい、そういう希望の施設になります。これからはもっと拠点を増やして、小さいお子さんがいるスタッフが働きやすい環境を整え、学童や保育園経営も手がけたいです」と竹内氏は夢を語ります。施設の中では竹内社長はじめ、スタッフが笑顔で利用者の方たちに話しかけながら接していました。

【同友会との出会い】

介護事業を経営する㈲スマイルサービス 代表取締役 松原律子氏(北部地区会)の紹介で昨年ゲストとして例会に参加し、その時の松原氏の例会報告を聞いてすぐに同友会に入会しました。

「同友会には学ぶ場があります。他業種での実践や経験者の話を聞くことは大きな学びになります。良い経営者になる、良い会社を作る、良い経営環境を作ると言う同友会理念にも賛同しました」と語る竹内氏は、今年度の経営指針セミナーに参加して経営理念を作成中です。

【趣味と家族】

「ゴルフ、山登り、国内旅行、離島や人があまりいないところにぶらりと旅をするのが好きです。何事も広く浅くがモットーです。それと親が元気なうちに結婚したいです」と語る竹内氏。お母様が施設の庭の草木の手入れをしながら、私たちをお出迎えしてくださったのが心に残りました。

(北部地区会 広報委員 東 禎章 記)

▲「自宅でくつろげる雰囲気」をめざし、民家を改装

埼玉同友会
広報委員

委員長 福山行雄
副委員長 酒井 啓 / 小林吉文
委員 鈴木光義 / 藤元天美 / 川口 高倉光俊 / 戸田・蕨 石井孝德
浦和 三友哲哉 / 安藤洋泰 / 大森靖之
大宮東 安形智昭 / 柴田大智
大宮南 加藤早苗
荒川裕治 / 上坂 理
西部 吉野雅一 / 菅沼 剛
むさし野 髙橋友樹
東部 鈴木一朗
宇野碧留
中部 矢澤敦臣 / 池田豊子
埼葛 大塚 治 / 今村達郎 / 松本賢二
北部 東 禎章
さくら 池田恵津子
川越 小田 明
東彩 若林 清治
制作担当 枦込博久
印刷・製本 加藤早苗
事務局 古川佳子

■ 2017年12月1日発行(毎月1回1日発行)■発行元／埼玉中小企業家同友会〒338-0001さいたま市中央区上落合2-3-2新都心ビジネス交流プラザ10F ■ TEL 048(747)5550 FAX 048(747)5560　一部200円